

第151回 東葛しぜん観察会

初秋の金杉で谷津田の自然を楽しもう

勝股 政雄（船橋市）

日 時：2018年9月22日（土）9:20～12:00 天気：曇り 一時小雨

場 所：金杉、滝不動（船橋市）

参加者：一般8名（内 子ども3名）、指導員15名

担当指導員：塚原晃子 山口正明 勝股政雄

前日の雨が上がり、曇り空ながら実施できることになり、うれしかった。実は、この9月の観察会は、過去2度雨でお流れになった経緯がある。参加者は8名で少なかったが、元気な子どもたちもいて、にぎやかに出発した。子ども班と大人班それに指導員班に分かれ、キンモクセイの良い香りを楽しみながら滝不動（金蔵寺）の山門をくぐった。

まず、全員でこの寺にまつわる伝説に耳を傾けた。土中に埋まっていた不動明王を掘り出したと言われる所から、清水が滝となって今でも流れ出している。折しも、一人の男性がたくさんのペットボトルに水を汲んでいるところだった。寺を後にして、さくら公園に行き、ドングリを拾ったり、秋の七草のハギの花を観賞したりして、雨上がりの斜面を注意して下った。降りた所が草原となっており、エンマコオロギやオンブバッタ、カナヘビの子どもなどを手に取って虫メガネで観察した。特に子どもたちは大喜びだった。

団地の中を抜けて金杉台公園に着いた。ムクノキの葉の匂いを嗅ぎ、トウカエデの鈴なりについた種を見て、その一つを取って飛ばしてみた。二つのままではよく飛ばず、分けて一つにしてみるとくるくると良く回りながら落ちる。種に羽を付けて遠くに飛ばそうとする工夫を見て皆喜んだ。続いて、金杉緑地に入った。丁度花が咲きだしたばかりのキバナアキギリの群落に感激した。薄暗い森の中で黄色く咲いていてよく目立つ。森を抜けると、今度はヒガンバナの絨毯が目飛び込んできた。「巾着田へ行かなくても十分！」という声も聞かれるほど見事だった。秋の七草では、ハギ、オミナエシ、クズ、キキョウ、ススキが見られた。

谷津田の中央を流れる川が北谷津川で、滝不動の滝を源流として海老川となって東京湾に流れ込む。皆で黄金色の稲穂と周りの斜面林の緑を見渡していたら、突然アオサギとダイサギが飛び上がった。悠々と飛ぶサギの様子を見て歓声が上がった。

ヤブツルアズキ、ヒヨドリジョウゴ、カナムグラ、カラスウリ、ガマの穂などを見ながら、ゴールの金蔵寺跡に到着した。江戸時代になって滝不動周辺が幕府の牧場となり、金杉の人々は寺に参ることができなくなったので、ここを金蔵寺としてお参りをしていた所だ。カヤやアカガシの大木を観察した。子どもたちはムクロジの実を拾って、水が入ったペットボトルに入れて力一杯振り、白い泡でいっぱいになるのを見て大喜びだった。

咲き誇るヒガンバナ、林床を黄色く彩るキバナアキギリ、声で秋を告げるコオロギ、たわわに実った稲穂など、金杉の自然から参加者に秋を感じてもらえ、指導員もやりがいを感じられた。



草原でエンマコオロギ・オンブバッタ・カナヘビ探し